

師 瑳 探 訪

⑥

戦争の記憶

8月15日の「終戦の日」を前に、『平和への思い』と題する冊子が図書館へ届けられました。千葉県退職女性教職員の会（房総・ふさの会）八匝支部の会員が戦争体験をまとめたもので、20名余りが原稿を寄せてい

ます。

体験集の中には、昭和16年12月、校内放送で運動場に集合した全校生徒に学校長が緊張した声で開戦を伝えるが、戦争のことなど予想もつかない一年生は元氣に行進して教室に入ったこと。小学校高学年は出征兵士の見送りに八日市場駅や干潟駅で

参加したこと、国民学校の生徒も軍事一色だった生活など教職員の目から記録されています。

また、会員の中には戦争の真つただ中、女学校の生徒であった人、学徒動員として工場で働いた人、東京から疎開してこの地域に住むことになった人などあの戦争での体験が忘れ得ぬ記憶としてつづられています。

この体験集は、「戦後六十年」という年月を重ねた今、戦争を体験した人たちも少なくなり、戦争という事実が風化しつつある今日、「現在の平和は戦争

による多くの犠牲の上に成り立っていることを忘れてはならない」との思いの中でまとめられたものだけにそれぞれの文章からは、「平和への思い」が強く感じられます。

最近の新聞記事で、市内に太平洋戦争関連の石碑があることを知りました。それは妙福寺（飯高地区）境内にあり、第二次世界大戦で、中国に抑留された日本人兵士が終戦後に解放され、それから40年経たのを機に建てたものでした。

碑文によると、中国に抑留されたのは1109名、1956年（昭和31年）以降全員が釈放されました。そのうち、千葉県出身者は55名、碑の裏には帰還者名であろうか50余名の名が刻まれています。無事帰国した人たちは、「過去への反省を込め会（中国帰還者連絡会、略して「中帰連」）をつくり恒久平和を希求してきました。1997年（平成9年）7月のことでした。

深緑につつまれた妙福寺周辺も60年ほど前には戦争下であり、戦争の体験談を聞くことができました。これからは、境内にある「中帰連」と題したこの碑や戦争体験記『平和への思い』が、戦争の記憶を伝えることになるでしょう。

関八日市場図書館 ☎73・3746



平和を希求し建てられた石碑（飯高地区・妙福寺）